●設立10周年記念事業

ボランティア・NPO活動センターは2001（平成13）年に、「営利を目的としないボランティア活動を通じて、相互に学び合うサービスラーニングという共生の理念を具現化し、本学の教育研究に寄与する」ことを目的に設置されました。センター設置10年目という節目を迎える2010（平成22）年に、各種記念事業を実施し、それらの事業をとおしてボランティア・NPO活動センターの取り組みを学内外に発信すると共に、成果と課題の総括をし、センターのより一層の発展に努めてまいります。

企画名　タイトル	ボランティア・NPO活動センター 10周年記念講演会 「今、自分が社会に対してできること」～社会を動かす一歩を踏み出す～
報告者名	竹田　純子（深草キャンパス　コーディネーター）
日　　時	2010年12月４日（土）13時30分～ 16時00分
参加人数	200名（学外者111名、学内者89名）
実施主体	ボランティア・NPO活動センター

■経緯・目的

ボランティア・NPO活動センター設置10年目という節目に、今までのセンターの成果と課題を総括し、その成果を学内外にPRすると共に、学生のボランティア活動に対する意識を向上させることを目的に10周年記念講演会を実施しました。

講演会では、深刻な社会問題である『貧困』をテーマに取り上げ、参加者それぞれが『自分が社会に対してできることは何なのか？』について考え、行動するきっかけになることを目標としました。

■概　　要

テレビジャーナリストの水島　宏明 氏を講師として招き、講師が制作した『ネットカフェ難民』をテーマにした映像を見ながら、その取材過程で見えてきた『貧困』の現状について講演していただきました。

講演は、瀬田学生スタッフ代表・副代表である高田さん、嵒さんの進行で行われ、現代の貧困の象徴でもあるネットカフェ難民との出会いから、そこから見えてきた共通点や講師がなぜ貧困問題に取組むようになったのか、外国での事例、福祉行政の問題点などについて話されました。また、先入観を持って物事を見てしまうステレオタイプの罠についても話され、「けなげだから助けたい」「頑張る人だから助ける」というのではなくて、貧困などの問題を社会的に捉え、「頑張らない人、頑張らないように見える人、それでも救わないと社会的に損失だ」という視点を持つこと、援助者の視線（上から目線で物事を考えていないか？）等についての問題定義がされました。

講演が予定時間をオーバーしてしまったため、十分な質疑応答の時間を取ることができなかったが、会場から質問（38件寄せられた）を集め、質疑応答も行いました。

また、会場の外では学生企画であるパネル展（別ページを参照）を実施して来場にセンターの活動を紹介する取組みを行いました。

講師：水島　宏明　氏
　　テレビジャーナリスト

■参加者の声・得られた効果など

- 人の支援のあり方について参考になりました。支援後のサポート、支援を受ける人、支援を受けられず困っている人について深く考えさせられました。
- 「貧困」や「ネットカフェ難民」ときいても少しピンと来ず、他人事のことのように考えてしまっていたのですが、本当に身近だと感じました。
- 「支援する」ということの原点を考えさせられる講演会でした。
- 深く考えさせられる内容だった。「人を支援する」は本当に難しい。支援する側にも色々な感情があるので、“けなげ”じゃない人にはムカついたりもする。しかし、貧困の本当の姿は“けなげ”ではないことの方が多いのだということに今日気づかされた。

などの意見が寄せられました。目標であった、参加者それぞれが『自分が社会に対してできることは何なのか？』について考え、行動するきっかけになったのではないかと考えています。

■コーディネーター所感

10周年という節目の年に、学生を始めとするボランティアに関わる人に『今、自分が社会に対してできること』を問いかけたこの機会は、一緒にこの10周年を作ってきた学生スタッフ、教職員にとって、とても貴重であったと考えています。

今、この混迷する世の中において、少しでも安心して生きていくためには、『個々人が困った時に“助けて”と声をあげることができ、その声に手を差し伸べてくれる人が必ず存在する』と信じることができるということではないでしょうか。

ボランティア活動とは、まさに声無き声に耳を傾け、寄り添い、共にある活動です。

その原点をこの講演会を通じて改めて考えることができたと思っています。

企画名　タイトル	ボランティア・NPO活動センター 10周年記念祝賀会
報告者名	竹田　純子（深草キャンパス　コーディネーター）
日　時	2010年12月４日（土）17時00分～ 19時00分
参加人数	139名（学外者47名、教職員15名、学生77名）
実施主体	ボランティア・NPO活動センター

■経緯・目的

ボランティア・NPO活動センター設置10年目という節目に、関係団体の皆様や、センター設置から現在までセンターを支え、共に作ってきた学生スタッフのOB・OG、現学生スタッフ、教職員が一同に集い、この10年をふりかえり、未来を考えることを目的に10周年記念祝賀会を実施しました。

■概　　要

オープニングは、センターと関係のある学生サークルのジャズサークルの演奏と、華舞龍による威勢の良い踊りから始まり、深草学生スタッフ代表・副代表である、横関さんと竹本さんの司会により会は進行されました。

進行は以下の通りです。

17：00 ～開会

ジャズ研究会の演奏と華舞龍による舞

- 学長挨拶
- スライドショーにて10年をふりかえり
- 初代センター長より乾杯の挨拶
- 歓談
- 祝電披露
- アトラクション

①司会者の横関さんが会場にいる人に『ボラセンの思い出』『これからのボラセンに望むこと』について突撃インタビュー
②お土産大抽選会

- ジャズサークルの演奏
- 学生スタッフ代表の挨拶
- センター長の挨拶

19：00　閉会

■参加者の声・得られた効果など

多様な顔ぶれの出席者の皆様と（学外からセンターとの関係の深いNPOや行政官関係者、児童館などの職員の方々や学生スタッフのOB・OG、退職した元職員等、大学関係からは若原学長をはじめとする教職員、学生スタッフ）駆け足ではありましたが、センターの10年をふりかえり、ご参加いただいた皆様とともに10年をお祝いすることができました。

ご参加いただいた方々からは、「元気の良い学生さんと話せて良かった。」という声や「この祝賀会をきっかけに学生さんと知り合うことができたので良かった。」「活動団体どうしの交流の場になった。」などという声をいただきました。

講演会の講師である水島氏からは「学生さんたちと直に話ができて、私自身にとって非常に充実感がある会合となりました。」といった言葉もいただきました。

■コーディネーター所感

学生スタッフと一緒に、力を合わせて創ることの出来た手作りの祝賀会でした。舞台上の垂れ幕も学生の手書きで、司会進行も学生。大学内の一部所の公式行事が、こんなにも手作りで実施されるのは珍しいのではないかと思います。

至らない点もあったかと思いますが、学生スタッフ、教職員ともに力を合わせて祝賀会を開催できたと思います。昨年末から『来年は10周年。記念すべき年にしよう！』と合言葉のように言い続けてきたことが花開いたように感じました。

更なる歴史を創っていくために精進を続けなければとの想いを新たにする契機となりました。

企画名　タイトル	ボランティア・NPO活動センター 10周年記念事業　公開シンポジウム「市民の力で10年後の社会を“アツく”する」
報告者名	西島　有恒（瀬田キャンパス　コーディネーター）
開催日	2011年２月26日（土）10時00分～ 11時50分
参加人数	300名
実施主体 （共　催）	ボランティア・NPO活動センター 特定非営利活動法人　日本ボランティアコーディネーター協会

■経緯・目的

センター設立10周年記念事業として、「全国ボランティアコーディネーター研究集会2011」を日本ボランティアコーディネーター協会とともに開催し、センターの10周年記念事業の企画として公開シンポジウムを実施しました。

2011年は日本が提案した「ボランティア国際年」から10年目の「ボランティア国際年10周年（IYV＋10）」にあたります。

その中で「ボランティア」への理解や参加、若者の間での「ボランティア」の捉え方や広がりといった点など、改めて「市民の社会参加」

のあり方や広がりが問われています。

シンポジウムでは「市民の社会参加」を進める上で重要となる「寄付」や受け止める社会（特に自治体や政府のあり方）の仕組みなど、それぞれの場に深く関わる方々のお話を通して、市民が築く未来の姿を探ることをねらいとしました。

■概　　要

○シンポジウム

【パネリスト】

消費者庁長官、元我孫子市長　　福嶋　浩彦氏

(特活)日本ファンドレイジング協会　常任理事・事務局長

鵜尾　雅隆氏

ボランティア・NPO活動センター副センター長

筒井のり子

【コーディネーター】

(福)大阪ボランティア協会　常務理事

早瀬　昇　氏

シンポジウムはコーディネーターの早瀬氏が進行し、パネリストの３名のぞれぞれの見地からの発言がありました。

福嶋氏からは、使い道を明確にした市民債に発行額の５倍の応募があった事例をもとに、市民自身が自治力をつける大切さなどが語られました。

鵜尾氏からは、年末年始の児童養護施設等へ送られた物資の寄付のニュースなどを元に、日本での寄付の広がりへの期待や寄付も社会参加の一つであることなどが語られました。

筒井副センター長からは、10年間のボランティアや市民活動の同行や変化などが語られました。

パネリストからの話題の提供のあと、「新しい公共支援事業」や市民自身の手でよりよい社会を作るためには、具体的なミッションに向かって市民が活動することが重要であり、この点では今後の10年で寄付やボランティアには期待されるところが多く、ボランティアや市民活動をサポートするために、ボランティアコーディネーターの役割も今後の社会でますます重要になることなどが熱く語られました。

■参加者の声・得られた効果など

- 寄付や支援はこれに使ってほしいとか守りたいもの等、意義がとても大切であることを改めて実感した。
- 寄付とボランティアについて悩んでいたのですが、寄付とボランティアは両輪という言葉が響きました。
- 「市民の力」が注目されている今、１人１人の活動や行動が大事なのだということを再確認した。そこでのボランティアやボランティアコーディネーターの役割も、これからますます求められる存在となってほしいと思います。
- ボランティア国際年から10年間の歴史を知ることで市民参加の大切さを理解出来た。よい社会をつくる為には、市民・住民の気持ちが大きく関係している！ということで、これからもボランティア・寄付等の重要性を伝えていけるといいと思います。

といった意見が寄せられました。

■コーディネーター所感

司会を学生スタッフが務めるなど、学生の視点も大事にしているセンターの特色が出たのではないかと思います。記念講演会（P.91）では、ボランティアの原点を見つめ、今回のシンポジウムでは、この10年後の展望を見つめるというテーマにも非常に密接に結びついたシンポジウムであったと思います。

10周年を迎えたセンターが今後活動を発展させることを考えると、学生らが「市民社会の担い手」として成長するために、ボランティアに参加してさまざまな気づきや学びを得ること、またそれを通した地域貢献がますます重要になると思います。

このシンポジウムを通して、新しい市民活動の流れや展望は、今後のセンターの展望を考える上での大きな材料になったのではないかと思います。

企画名　タイトル	ボラセン設立１０周年記念感謝祭 ～６（ロク）でもないよ、パネル10（テン）だよ～
報告者名	横関　つかさ（法学部　政治学科　３年次生）
日　　時	１．2010年12月４日（土） （ボランティア・NPO活動センター設立10周年記念講演会・祝賀会） ２．2011年2月26日（土）・27日（日） （全国ボランティアコーディーネーター研究集会2011）
場　　所	１．龍谷大学深草キャンパス　３号館301教室前廊下 ２．龍谷大学深草キャンパス　２号館109教室とその周辺
実施主体	ボランティア・NPO活動センター

■経緯・目的

ボランティア・NPO活動センター（以下、当センター）の設立10周年記念事業に合わせて、当センターのことを来場者により深く知ってもらうことを目的とした、学生スタッフの企画を含む当センター主催事業のパネル展を実施しました。

■概　　要

Ⅰ．パネル展

展示したパネル一覧

- センター事業等
  ボランティア・NPO活動センターとは？／ボランティア入門講座／ボランティアリーダー養成講座／スタディーツアー／オリエンテーション合宿／日常風景（各キャンパス１枚ずつ)
  ＊JVCC時には10周年記念講演会／祝賀会のパネルも作成、展示しました。

- 深草企画
  アフターショック／Young☆Star／明日の子どもたちに笑顔を／伏見isジパング／ECOキャップ回収大作戦／伏見区野宿者支援プログラム／新歓／龍谷祭模擬店／ボラセン合宿／班活動／ラビッシュ・ラビット／ビックイシュー講演会／打ち水大作戦／フェアトレード講演会
- 瀬田企画
  Let's ボランティア（出張ボラセン）／くさつ子どもフェスタ／FUKUSHI体験！秋のボランティア祭／滋賀の多文化共生を考えよう／世界丸見え！／丸屋町夜市への協力／大津祭ボランティア／Reキャッププロジェクト／エコパレット、むつみ園見学ツアー／世界がもし100人の村だったら／龍谷で出会うもう一つのアート展／災害ボランティア／レジ袋削減プロジェクト

Ⅱ．学生スタッフ紹介

学生スタッフの『簡単な自己紹介』『ボラセンに入ったきっかけ』『ボラセンで得たもの』『ボラセンを漢字一文字で表すと？』『10年後のボ

ラセンはどうなっているか？』という質問に答えたカードをキャンパス別に展示しました。

Ⅲ．来場者参加型掲示板

「あなたが幸せを感じる瞬間」をお題に、来場者の方が自由に参加できるコーナーを設置しました。

回答はいくつかの要素に分類することができました。

① 欲求が満たされた時…「おいしいものを食べた時」や「いっぱい寝れた時」など。
② 好きなことをしている時…「スポーツをしている時」や「韓国語を聞いている時」など。
③ 成功体験をした時…「ケーキが上手に焼けた時」や「企画がすっと通った時」など。
④ 外的要素による感動…「空がきれいな時」など。
⑤ 自分自身や他人の中に存在する自分の存在価値を実感した時…「生きていること」、「自分が必要とされた時」など。

これらⅠ～Ⅲを実施場所にて掲示し、自由に見ることができるようにしました。また、各キャンパスから学生スタッフを配置することによってパネルの補足説明や質問対応を行いました。

■参加者の声・得られた効果など

この企画に関してアンケートを取った訳ではないので記録としては残っていませんが、イベント実施時には多くの方々がパネルの前で立ち止まって見て頂けたり、また所々では学生スタッフとパネルについて話している姿も見受けられました。

当センター独自の企画やその中身などを知っていただけたことで、当センターのより深い理解につながったのではないかと思います。

また、学生スタッフにとっては、自分の担当した企画やセンターの事業を限られたスペースで表現して人に伝えるということの難しさ、それを乗り越えるための工夫などを考えるきっかけになり、今後のコーディネートに活かせる経験になったのではないでしょうか。

■学んだこと・今後の課題

今回はスタッフが全員参加が企画担当者であるという認識を持って欲しかったので、敢えてコアメンバーなどを設けずに、最低限度のスタッフを各キャンパスの総括役として配置しましたが、結果的に自分ひとりの独断で企画を進めてしまった節もありました。今後このような企画をする際はコアメンバーを正式に募り、よりよくパネル展を実施する方法などを考える環境を設けてることを考えても良いのではないかと思います。

学生スタッフの当日の対応方法についても特に決まった指示を出していなかったので、企画の説明に戸惑ったり、見ている人への声の掛け方が分からないスタッフもいたようです。予め対応についてある程度のマニュアルを配ることや、事前に各自で準備をしてもらうなどの工夫を考えるべきでした。

このように反省点や課題はあったものの、学生スタッフが真剣にパネルを作成している姿は企画担当者としてはとても嬉しく、展示してみるとその企画量や想いのこもったパネルの迫力に改めて当センターの力強さを感じることができました。またそんな渾身のパネルを多くの方々に見ていただいて、センターを理解していただける一つのきっかけになったのであれば幸いです。本当に本企画を実施して良かったと感じています。パネル10実施にあたりご協力いただきました皆様、ありがとうございました。

企画名　タイトル	「龍谷大学ボランティア・NPO活動センター」の元気の秘密を探る
報告者名	井筒　智隆（文学部　真宗学科　２年次生）
日　　時	2011年２月26日（土）　13時00分～ 14時00分
場　　所	深草キャンパス２号館108・109教室
実施主体	ボランティア・NPO活動センター
参加人数	84人（学外54名・学生スタッフ30名）

■経緯・目的

今年度でボランティア・NPO活動センターは、10周年を迎えます。その記念事業の一環として、全国ボランティアコーディネーター研究集会2011（以下、JVCC）を共催実施することになりました。

学生スタッフは、実行委員や運営ボランティアなど、様々な形で関わったのですが、その関わりの１つとして、JVCCで今回初の試みとなるウォーミングアッププログラムの１つを担当させていただくことになりました。

『2001年の発足以来の歩みと今後の展開について、学生に話してほしい』とのリクエストと『龍谷大学ボランティア・NPO活動センターの元気の秘密を探る』というプログラムタイトルをいただいたので、その意向を考慮しながら、深草・瀬田の両キャンパスの学生スタッフが協力して、『大学生とJVCC参加者が関わることのできる企画』『普段どの様な気持ちで活動し、どの様な活動をしているのか？』を知ってもらえることを目標に、この企画を立案・実施しました。

■概　　要

流れとしては、以下の通りです。

① 参加者に龍大ボラセンと『どの様な所なのか』『どんな活動をしているのか』を紹介するためのパワーポイントを作成し、参加者全体に説明を行いました。

② 参加者と学生スタッフの交流時間を設けるため10組のグループに分かれてもらい、参加者・学生スタッフがグループ内で自由に話せる時間を設けました。

また、上記以外の企画として、下記の展示を行いました。

① 参加者の『元気の秘密』を聞くため、『元気の木』という名前のパネルを作り、桜の形に切ったカードを用意して、そこに『自分が元気を感じる瞬間』もしくは『ボラセンで元気に活動しているわけ』を学生スタッフに記入してもらって、パネルに貼りました。それを廊下に展示してみてもらえるようにしました。（このプログラムの参加者にも記入してもらいたかったのですが、時間が足りなくて記入してもらうことが出来なかったのが残念です。）

② 当センターが10周年を迎えたときに制作したパネルも会場に展示しました。（詳しくは、ボラセン設立10周年記念感謝祭　～６（ロク）でもないよ、パネル10（テン）だよ～の報告をご覧ください。）

■参加者の声・得られた効果など

- 普段話せない学生と話せて良かった。
- 学生がどんな気持ち考えで活動しているのかが分かった。
- いろいろな団体の方との交流が出来て良かった。

等の声を聞くことが出来ました。学生スタッフは、ここで得られた経験から、今後の活動に繋がるモノが得られたのではないかと思います。

■学んだこと・今後の課題

準備期間が短い中、メンバー一人ひとりがいろいろ考えて出来たのではないかと思います。

しかし、メンバー間でも共有できていない部分が多々あり、他のコア以外の学生スタッフに上手く情報伝達できないことがあったように思います。

今後何かを企画・運営する際には、メンバー間の情報共有を大切にしていきたいと感じました。